

産業建設

所管事務調査

産業建設常任委員会は9月25日、市役所で「カキのへい死等の状況について」を調査しました。

近年、深刻化している養殖カキのへい死の状況を含め、水産物生産量の推移や水質調査・海水温の比較などについて、本市水産課の青山豊英課長と中川健司係長のほか、参考人の広田湾漁協販売課の伊藤博治課長から概要説明を受け、質疑を行いました。

説明によると、広田湾でのカキの生産量は、令和4年をピークに昨年までは減少傾向にあるが、本年はへい死の状況が少なく、好転しているとのことでした。また、昨年に比べ海水温も低く、出荷が本格化する11月以降も期待できるそうです。

本委員会は、水産業の課題に関し貝毒の問題から、継続的に調査を進めてきました

所管事務調査

9/3

- ・会期中の所管事務調査について

9/25

- ・カキのへい死等の状況について
- ・空き家対策の推進に関する政策提言について
- ・管外行政視察について

現地調査

が、依然として原因究明されていないカキのへい死について、養殖現場においても調査することになりました。

同日、気仙町内でカキ養殖の現状について生産者8人から話を聞きました。

2、3年前からへい死が増え、5割から6割程度の出荷に留まっており、経営は厳しさを増しているとのことでした。へい死の原因は広田湾特有の可能性もあり、国や県レベルでの調査の必要性を感じました。

また、産業に密着した情報が得られ、現地調査の重要性を再認識したほか、カキ殻などの残渣処理など、諸課題の解決に向け、引き続き調査することになりました。



カキ生産者と意見交換（気仙町）

委員長 菅野 秀一郎
副委員長 伊勢 純
木村 聡
大和田 加代子
大坂 俊

教育民生

所管事務調査

教育民生常任委員会は、調査テーマを「こどものウェルビーイングの向上」としています。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態で生活を送ることができることを指します。

このテーマについて知見を深め、他自治体の取り組み等を学ぶため、8月10日に市庁舎で宮城教育大学の本図愛実教授を講師に研修会を開催しました。

研修会には、委員外議員のほか、本市教育委員会からも職員がオブザーバーとして参加しました。（詳細は20ページ）

請願審査

教育民生常任委員会に付託された請願第1号「子どもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書について」は、9月25日に審査しました。

所管事務調査

7/25

- ・陸前高田市こども基本条例に係るリーフレットについて

8/10

- ・こどものウェルビーイングに根ざした教育施策及びこども支援の在り方について

9/3

- ・会期中の所管事務調査について
- ・管外行政視察について

9/25

- ・請願第1号
子どもに寄り添う時間を確保するための、2027年度政府予算に係る意見書採択の請願について
- ・管外行政視察について

請願者からは、こどもを取り巻く課題が深刻化する一方、教員不足などでこども一人ひとりに寄り添う時間が十分に確保できない状況にあり、教職員の増員が必要であることが話されました。また、こどもに寄り添う時間を確保するため、学級編成基準を30人に引き下げること検討する必要があることや教員の働き方改革を実行するために国の予算措置を求めることなど、請願の趣旨について説明がありました。

審査では、委員から、こどもたちの成長には教員が一人ひとりに寄り添うことが不可欠であり、教職員の増員に取り組むべきとの意見や職場環境の改善を進め、教員のなり手不足解消に取り組む必要があるとの意見がありました。

その結果、出席委員全員一致で「採択すべきもの」と決しました。



請願内容について当局から説明

委員長 佐々木 良 麻
副委員長 大坪 涼 子
小林 卓
福田 利 喜
福川 修 一
及